

業務資料 № 445

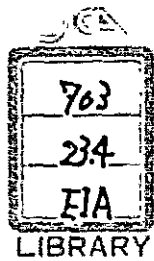
# 雇用農実態調査報告書

(コチア青年移住者実態調査)

昭和51年度

国際協力事業団

(移住部門)



国際協力事業団	
受入 月日 '85. 3. 23	703
登録No. 11176	23.4
	EJA

## < は し が き >

本調査は昭和30年の導入開始以後、58回にわたり渡伯したコチア青年移住者のうち、産業開発青年隊を除く、2,341件を対象としてサンパウロ支部においてその実態—現住所、家族状況、職業、資産、移住に関する感想等—を把握することに主眼を置いて実施したものである。

本報告書は集計時まで回収の間に合った513件を対象として取りまとめたものであり、消息調査も加味したことから単純な調査内容に止ったが、今後の青年農業移住推進上何等かの参考になれば幸いである。

本調査に協力いただいたコチア青年のほかコチア産組中央会、コチア青年連絡協議会をはじめとする関係各位に対し深く感謝の意を表する。

昭和52年9月

国際協力事業団

移住第2業務部長

JICA LIBRARY



1024321[0]

# 目 次

## I 調査方法等

1. 調査目的 .....	1
2. 調査方法 .....	1
3. 調査対象者 .....	1
4. 調査期間 .....	1

## II 基礎調査結果

1. 回答総数 .....	2
2. 年齢構成 .....	2
3. 家族構成 .....	4
4. 職 業 .....	4
5. 負 産 .....	5
6. 年間租収入 .....	6

## III 農業従事者に関する調査結果

1. 独立農業者 .....	7
(1) 独立までに要した期間 .....	7
(2) 主たる作物 .....	10
(3) 土地面積 .....	10
(4) 負 産 .....	10
(5) 年間租収入 .....	10
(6) 事業団からの融資 .....	10
(7) 農業青年引受希望の有無 .....	11
2. 未独立農業者 .....	11
(1) 独立目標時期 .....	11
(2) 独立希望作物 .....	12
(3) 独立時の土地面積 .....	12

(4) 独立資金調達方法 .....	12
(5) 現資産評価額 .....	12

#### IV アンケート調査結果

1. あなたは移住して良かったと思いますか .....	13
2. あなたはブラジルに永住しますか .....	14
3. あなたの配偶者について .....	14
4. あなたのお子さんの学校教育について .....	15
5. あなたの家庭での使用言葉について .....	16
6. あなたは過去に訪日しましたか .....	17
7. あなたは社会的団体の役職についていますか .....	17

#### V この調査資料を理解するための参考事項

1. コチア移住の概要 .....	18
2. コチア産菜組合中央会の概要 .....	19

#### VI 附 表

1. 関係指標 .....	22
2. 調査時の物価 .....	23
3. コチア青年移住者受入件数 .....	24
4. 出身県別コチア青年移住件数 .....	25
5. コチア青年移住者の実態調査票 .....	26

## I 調査方法

### 1 調査目的

現在また将来とも、南ブラジル農業移住者の中心となる青年農業者の移住推進のため、更には現在検討中の新コチア青年導入のための資料とするため、戦後における、青年農業移住者の名実とも中心的存在であった、コチア青年の実態を把握することを目的とした。

しかしながら、少しでも多くの回答を期待したため調査項目は簡潔である。

### 2 調査方法

聴取り調査は原則として行なわなかった。現コチア産組組合員については、同産組中央会より各地倉庫を通じ、産組の業務として、調査表を配布、回収した。

その他については、事業団職員がコチア青年の話を頼りに芋藪式に訪問し、調査表を返信用の切手を添付した封筒とともに手渡しして、必要事項を記入のうえ郵便してもらった。

また、サンパウロ市内在住者については、市内事情に詳しい調査員に委託し、調査表の配布回収を行なった。この結果、1977年3月31日513件の回答を得た時点で一応締切り、集計作業に入ったが、その後も回収は進められている。

### 3 調査対象者

コチア青年の導入が行われた、1955年から1967年までの12年間に移住した総計2508人のうち、同伴家族及びコチア青年導入枠を利用して移住した産業開発青年隊を除いた、2341件全員を対象とした。

### 4 調査期間

1976年9月から1977年3月までの7ヶ月間に亘り調査を行なったが、この間における諸評価額、通価価値の修正は行なっていない。

ただし、調査表の回収が最も多かった1976年11月を調査時点とし、円換算等を行なって差支えないと思われる。

## II 基礎調査結果

### 1. 回答総数

回答数は集計作業開始時点で513件調査対象者総数の21.9%であった。

未回収数のうちには締切り後回答のあった者も含まれており、また所在は確認したが、回答を得られなかった者、さらには帰国、死亡を確認した者を含めると、約65%の動向は把握出来たと考えている。

対象件数	回答数	未回収数	伯国外転住等	所在未確認
2341	513	1159	254	415
100%	21.9%	49.5%	10.9%	17.7%

- (注) 1. 回答数は1977年3月31日までに回収した数。  
2. 未回収数は所在は略判明しているが、回答を得られなかった者及び、1977年4月1日以降に回答した者。  
3. 所在未確認数は、時間をかければ所在が判明すると思われる者、及び距離的な関係から調査表の配布ができなかった者等である。

### 2. 年齢構成

1976年12月31日現在の平均年齢は39.3才である。

回答者513名の着伯年別の年齢構成は別表のとおりであるが、着伯年が新しくなるにつれ約1才ずつ若くなって行く。

着伯時の平均年齢は21.6才であるが、応募資格である18才になるのを待ちかまえて移住した様子もうかがえる。

因みに配偶者の平均年齢は35.7才である。

燈台年別年令 (1976. 12. 31 現在)

年令 階級	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	平均年令
19 55											4	5	11	5	7	10	8	5	1	42.7
56										1	10	14	17	8	8	6	11	6	1	42.0
57								1	7	16	18	13	18	9	18	14	1			40.7
58								5	10	9	15	9	8	12	5					39.5
59							6	15	11	5	4	2	7	2	1	1				37.8
60						4	13	6	9	6	8	9				1				37.2
61					2	7	8	3	3	2	3	3								36.0
62				2	3	3	2	1		1						1				34.8
63			1	1	3	1		1												33.1
64		1	1	1	1		3	1												33.4
65				2		1	2	1				1								34.8
66	3	2	2		1	1	1													31.1
67			1																	31.0
人数	3	3	5	6	10	17	35	34	40	40	62	56	61	36	39	33	20	11	2	513
%	0.6	0.6	1.0	1.2	1.9	3.3	6.8	6.6	7.8	7.8	12.1	11.0	11.9	7.0	7.6	6.4	3.9	2.1	0.4	100



### 3 家族構成

回答数513のうち、記入が不明確であった者を除いた505名の家族構成は、下表のとおりである。

構成	独身	夫婦のみ	子供1人	子供2人	子供3人	子供4人	子供5人
人数	20	24	43	82	132	103	64
％	4.0	4.8	8.5	16.2	26.1	20.4	12.7

構成	子供6人	子供7人	子供8人	計
人数	31	4	2	505
％	6.1	0.8	0.4	100

既婚者の平均の子供の数は3.2人であり、日本に比べ多い。平均年齢は38.9才、最高44才、最低33才である。

独身の農業従事者は15名のうち8名が未独立者であるが、独立出来ないから結婚しないのか、結婚しないから独立出来ないのか、今回の調査では不明であるが、結婚と独立の関係は今後の課題であろう。

### 4. 職業

(1) コチア青年は、移住当初は先輩の農場において、農業研修をしたが、その後自己の能力を生かして、或は健康上の理由で、農業以外の職業に従事している者が多い。

職業について、明確な回答のあった509人の現職業は、下表のとおりである。

職業	人数	構成比	備考
農業	403	79%	
商業	68	13%	蔬菜、花卉等の卸業、飲食業、一般商店の経営者及び従業員
工業	38	8%	生産会社、修理業等の経営者及び従業員
計	509	100%	

農業従事者が79%という高率であったが、これは農場を所有しているため比較的所在が確認しやすく、また回収率も良かったことを考慮すると、実際には70%を割るのではないかと思われ、逆に商業従事者は20%以上あると推測される。

(2) 農業従事者の内訳は下表のとおりである。

農業従事形態	人数	構成比
土地所有農業者	311	77%
借地農業者	62	15%
歩合農業者	19	5%
雇用農業者	11	3%
計	403	100%

例えば、馬鈴薯栽培の如く借地により大面積で営農するのが通常の形態であることも考慮すると、実際的な独立自営農業者は90%近い率となる。

しかしながら、歩合農業者、雇用農業者は未回答者を含めると150件はありと推定され、これらに対する独立援助指導が課題である。

(3) 商業従事者68名のうち、自営が91%と高率であり、特に蔬菜、花卉の卸業者が多い。

工業従事者は、逆に74%28名が雇用者であり、主に日本からの進出企業に就労している。

## 5. 資 産

資産に関する質問に答えた者は、426人総回答数の83%であった。

資産は農耕地、宅地、建物、永年作物、機械設備、車輛、現預金及び有価証券等であるが、現預金、有価証券を除き、いずれもその評価額は、回答者本人が査定し核算したものであるので、必ずしも正確とは云い難く、また資産の無い者の回答率が低いことも想定すると、実際の平均資産評価額は、この数字より下廻ることは考えられる。

しかし、その逆の場合もあるため、一応の平均値とみて差支えないであろう。

この426人の職業別資産評価額は、下表のとおりである。

(1人当たり)

職 業	資産評価額	備 考
農 業	4,591万円	347人の平均
商 業	4,917万円	57人の平均
工 業	1,906万円	22人の平均
平 均	4,483万円	426人の平均

この農業従事者と1975年度調査した工業移住者の資産評価額660万円と対比すると、約7倍の額となり、不動産の評価額が如何に高いかということが解る。

商業従事者の大半が、宅地のほか農耕地も有しているため、農業専従者より高い数値を示した。

#### 6. 年間租収入

租収入についての回答があった者は432人である。

職業別年間租収入は次表のとおりである。

職 業	年間租収入
農 業	2,085万円
商 業	3,183万円
工 業	479万円
平 均	2,112万円

商業は、その性質上租収入の多いのは当然であるが、農業者の場合収益率30%としても、農家所得額は円換算634万円となり、予想以上の額となった。

今后、作物別に抽出し、経営内容の調査を行なう必要がある。

### III 農業従事者に関する調査結果

#### 1. 独立農業者

コチア青年の主力である農業従事者のうち、栽培作物別独立自営農業者の諸数値は、別表のとおりである。

借地農業であっても、営農形態からみて独立農業者と判定される者、及び本人が独立農業者として申告したものも含まれている。

各項目で人数が異なるのは、不明確な回答を除外したためである。

##### (1) 独立に要した期間と過程

338人の回答があったが、着伯後独立までに要した期間は、平均6年2ヶ月であった。

この中には一旦離農したあと帰農した者、或は一旦独立したあと歩合農業に戻り再び土地を持った者等もある。

この独立までの年数は、当事業団が現在考えている標準的な独立までのパターンとなる雇用農業2年、歩合農業3～4年の年数にほぼ一致する。

独立までの過程が明確な者237人についての内訳は、下表のとおりとなる。

独立までの過程	人 数	構 成 比
雇用 → 独立	171人	72%
雇用 → 歩合 → 独立	28人	12%
雇用 → 借地 → 独立	32人	13%
雇用 → 歩合 → 借地 → 独立	6人	3%
計	237人	100%

また、雇用期間中雇用主を替えた者は、1回164人、2回35人、3回以上25人、1回も替わらなかった者278人で、平均すると、約0.6回である。

コチア青年が独立を目指した当時は、蔬菜、果樹、馬鈴薯の作物が多かったが、現在では花卉栽培での独立を希望する青年が多いこと、プラス土地代等の高騰から、資金の蓄積を主眼とした歩合農業の期間を長くすることが、現実的といえよう。

独 立 農 業

主たる栽培作物名	人 数		土 地 平均所有面積 ( <i>alg</i> )	資産評価額 (万Cr\$)	年間租収入 (万Cr\$)
	人	%			
蔬 菜	134	38	31 <i>ha</i> (13)	2,500万円 (100)	1,075万円 (43)
花 卉	37	11	14 <i>ha</i> (6)	3,975万円 (159)	1,500万円 (60)
果 樹	51	14	17 <i>ha</i> (7)	3,875万円 (155)	1,075万円 (43)
馬 鈴 薯	54	15	137 <i>ha</i> (57)	7,900万円 (316)	4,325万円 (173)
雑 作	43	12	163 <i>ha</i> (68)	4,700万円 (188)	3,150万円 (126)
養 鶏	27	8	43 <i>ha</i> (18)	9,775万円 (391)	4,875万円 (195)
そ の 他	8	2	82 <i>ha</i> (34)	3,575万円 (143)	2,000万円 (80)
計	354	100	60 <i>ha</i> (25)	-	-

者 総 括 表

過去事業団融資の有無				青年引受希望の有無			
有		無		1人	2人	3人以上	無 (%)
人数	%	人数	%				
66	49	68	51	17	15	7	95 (71)
13	37	22	63	13	6	3	14 (39)
25	50	25	50	7	7	2	35 (69)
11	21	42	79	16	14	2	20 (38)
9	22	32	78	5	11	2	24 (57)
13	50	13	50	4	3	3	16 (62)
2	25	6	75	0	2	0	6 (75)
139	41	203	59	62	58	19	210 (60)

(2) 主たる作物

蔬菜が38%で最も多い。サンパウロ市へ供給している新鮮な野菜の大半は、コチア青年を中心とした日系人が栽培しているといわれていることが本調査でも分かる。

その他、雑作、馬鈴薯栽培と典型的な大型機械化農業に従事している者が30%近い。

(3) 土地、面積

作物により面積に大差があることは当然であるが、馬鈴薯、雑作が130~170ヘクタール平均で、いかにも広大である。

しかしながら、土地評価額は都市近郊、奥地の別を勘案した場合、面積の多少にかかわらず、大差はないとおもわれる。

(4) 資 産

土地中心の蔬菜、花卉等に対し、ブルドーザー、コンバイン等大型機械を所有する馬鈴薯、雑作、及び鶏舎への設備投資の大きい養鶏等の資産評価額が高額である。

(5) 年間粗収入

資産同様、馬鈴薯、雑作、養鶏がずばぬけて多い。しかしこの三型態は投機的な性格を有し、かつそれ相当の農業経営費を要するため、粗収入の多寡が農家所得の多寡につながるには云い難い。

収益率、安定性からいえば、蔬菜、花卉、果樹等の方が堅実であるとも云われている。

(6) 事業団からの融資

全体では41%の者が事業団からの融資を受けていた。その当時の融資総枠、貸付枠等を勘案した場合、ほぼ妥当とおもわれる。

養鶏、蔬菜等について独立当初の小規模な農場経営のための営農資金の融資を受けた者が多いが、今後は貸付枠の拡大を期待し、土地購入資金の融資を希望する者が増大するであろう。

独立については、種々の資金を重複して活用した者が大半であるが、事業団以外の主な資金調達先を挙げれば下表のとおりとなる。

資金調達先	比 率
パトロンの援助	22%
市中銀行利用	40%
親元からの援助	13%
自己資金	17%
その他	8%

(7) 農業青年引受希望の有無

独立農業者のうち約40%が青年の引受けを希望しており、その希望数は300人に達している。

現在、日系、非日系を問わず、89%の農家で一戸平均10人の労働者を雇用しているという結果が出ている。

これらコチア青年が雇用されていた時代は、大半が独立に際し、パトロンからの何等かの援助を受けていたが、現在、土地価格等の高騰により、その援助が非常に困難となったため、引受けに消極的な面もみられる。しかし、独立に際しては、事業団が積極的に応援する現制度が、理解されれば、引受希望数は増大し、毎年200～300名の青年引受けは可能とおもわれる。

2. 未独立農業者

(1) 独立目標時期

未独立であると明確に回答のあった31人についての内訳

独立目標時期	人数	構成比
1年以内	12人	39%
2年	7人	23%
3年	6人	19%
4年	2人	6%
独立を考えていない	4人	13%
計	31人	100%

独立目標時期と最も関連のあるのは、資金的問題であり、資金の調達計画により目標を定めている。



(2) 独立希望作目

回答数30人の内訳

希望作目	人数
蔬菜	6人
花卉	7人
果樹	8人
馬鈴薯	3人
計	30人

現独立農業者の栽培作物と比較し、花卉、果樹の希望の割合が多くなっている。やはり資金的な問題であろう。

(3) 独立時の土地面積

独立時の取得希望の土地面積について

回答のあった23人の内訳

取得希望土地面積	人数
2.4ha以内	5人
4.8ha ~12ha以内	8人
2.4ha以内	6人
26.4ha以上	4人
計	23人

(4) 独立資金調達計画

種々の資金の組合せを計画している者が大半であるが、主な資金調達先を挙げれば下表のとおりとなる。

資金調達方法	比率
事業団融資を期待している	56%
市中銀行	30%
親元よりの援助	11%
パトロンの援助	7%

最も多い組合せは、自己資金+事業団融資で、次が自己資金+事業団融資+市中銀行融資である。このように資金調達先は2~3の組合せとなるので、上記表の比率は100%を超える。

(5) 現資産評価額

回答のあった25人の平均資産評価額は、機械、車輛を中心として、Cr\$15万、円換算で約313万円である。

#### IV アンケート調査結果

##### 1. あなたは移住して良かったと思いますか。

(回答数 503)

良かったと思う	440人	87.4%
思わない	13人	2.6%
不明	50人	10.0%
計	503人	100%

1975年度実施した工業移住者実態調査において同じ質問に対し

良かったと思う	67%
思わない	4%
不明	29%

という回答があったが、ブラジル滞在期間が長いコチア青年の場合、不明という回答が大巾に少なくなっており、その分だけ良かったと思うという回答になっている。

良かったと思うという回答の理由としてあげている主なものは、

- |                            |
|----------------------------|
| (1) 自由でのびのびと生活ができる。        |
| (2) 将来性があり努力の甲斐がある。        |
| (3) 健康的であり、農業者として生きがいを感じる。 |
| (4) 夢を実現出来るという可能性がある。      |
| (5) 良い家族、良い友人が出来幸福になった。    |

等である。

また、移住して良かったとは思わないという回答のあった者の理由としては、

- |                           |
|---------------------------|
| (1) 他人との協力関係がうまく行かない。     |
| (2) 努力したが報いられない。          |
| (3) 自分の思うようにならず経済的に安定しない。 |

が主なものであるが、やはり、当然のことながら現任首長がうまく行ってない者、転業しても思うように仕事が出来ない者が大半である。

一方、不明と答えた者の理由としては、

- |                           |
|---------------------------|
| (1) 現時点では、未だブラジルの良さが解らない。 |
| (2) 現在の日本と比較出来ず解らない。      |
| (3) 成功した事、失敗した事さまざまである。   |

というのが代表的なものである。

2. あなたはブラジルに永住しますか。

(回答数 503)

もう既に帰化した	100人	19.9%
永住する	385人	76.5%
帰国する	2人	0.4%
転住する	3人	0.6%
不明	13人	2.6%
計	503人	100%

工業移住者実態調査では

永住する	93%
転住	3%
帰国	4%

帰化した者が既に20%あるということは、外国人土地取得制限法の適用を逃れる目的も多いと思われるが、やはり、ブラジルに定住する以上、将来のためにも帰化した方が良いと判断したためであろう。

この帰化人と永住すると答えた者を合わせると、96.4%という高率となった。ブラジルに永住する自信の無い者は、すでに大半が帰国したと考えても良いのではないか。

3. あなたの配偶者について

(回答数 489)

日本人一世	246人	50%
日系人(二・三世)	227人	47%
日系人以外	16人	3%
計	489人	100%

日本国籍を有する者と伯国籍を有する二・三世とがほぼ同数であった。

工業移住者の調査では

日本人一世	63%
日系人(二・三世)	28%
日系人以外	9%

となっており、コチア青年に比べ一世が圧倒的に多く、また日系人外の配偶者を持つ者も率では3

倍となっているが、これはなるべく結婚してから移住しようという風潮と、一方最近の若い青年は、或る面では国際化され、日系人以外との結婚に、さほど抵抗がないということであろうか。

配偶者が日本人一世と答えた246人のうち、「どこで結婚しましたか？」という質問への回答は、240人あった。

日本で結婚した	19人	8%
日本から呼寄せた	130人	54%
ブラジルで結婚した	91人	38%

という結果が出たが、一時話題となったコチア花嫁移住者が相当な数にのぼっている。

一方、13名の独身者の回答では逆にブラジルで結婚をしたいとする者10人で、日本から呼寄せたいとする者は、僅か1人にすぎず、他の2人はどちらでも良いと答えている。

#### 4. あなたのお子さんの学校教育について

(回答数 469)

ブラジル式のみ	118人	25%
ブラジル式+日本語教育	351人	75%
計	469人	100%

4分の3の家庭で、日本語教育をしているという結果が出た。

工業移住者の調査では

ブラジル式のみ	37%
ブラジル式+日本語教育	56%
日本語教育のみ	7%

子供の教育は、母親の影響力が大であることから、これを更に母親の国籍別に分類すると、下表のとおりである。

母系	教育方式	構成比
日本人(一世)	ブラジル式	21%
	ブラジル式+日本語教育	79%
日系人(二・三世)	ブラジル式	27%
	ブラジル式+日本語教育	73%
日系人以外	ブラジル式	46%
	ブラジル式+日本語教育	54%

5. あなたの家庭での使用言葉は？

(回答数 482)

ブラジル語	47人	10%
なるべくブラジル語	35人	7%
日本語	70人	14%
なるべく日本語	157人	33%
両方	173人	36%
計	482人	100%

という結果が出たが、家庭内で日本語を使用している率は、予想より高率であった。

コチア青年は全員一世であり、どちらかというとなら日本語は不得意と思われるが、配偶者によりどの様に違いかという調査では

配偶者	家庭内の使用言葉	構成比
日本人(一世)	ブラジル語	4%
	なるべくブラジル語	6%
	日本語	19%
	なるべく日本語	38%
	両方	33%
日系人(二・三世)	ブラジル語	12%
	なるべくブラジル語	9%
	日本語	11%
	なるべく日本語	28%
	両方	40%
日系人以外	ブラジル語	73%
	なるべくブラジル語	7%
	日本語	0%
	なるべく日本語	0%
	両方	20%

となり、配偶者により、家庭での使用言葉が変わるということが解る。

参考までに工業移住者の調査では

ブラジル語	13%
-------	-----

なるべくブラジル語	7%
日本語	53%
できるだけ日本語	27%

という結果が出ており、任伯期間が長くなるにつれ、日本語の会話のみというのが、少なくなっていくのは当然であろう。

6. あなたは過去に訪日しましたか。

(回答数 485)

訪日した	178人	37%
近々訪日を予定している	191人	39%
今のところ予定はない	116人	24%
計	485人	100%

7. あなたは社会的団体の役職についていますか。

(回答数 354)

役職についている	97人	27%
以前ついていたことがある	38人	11%
ついていない	219人	62%
計	354人	100%

各地、日本人会、文化協会、福祉団体或は産業組合等の役員幹部は、大半が事前移住者で占められていたが、今回の調査結果では、以前就任したこともある者を含め、回答者の38%の者が役職についていた。

未回答者を含めると相当な数になると見込まれ、コチア青年が日系コローア社会内、特に郡部において、リーダーになりつつあると思われる。

## V この調査資料を理解するための参考事項

### 1 旧コチア青年移住の概要

#### (1) 導入の動機

コチア産業組合中央会、故下元健吉氏の創案になるもので、第2次大戦後のブラジルにおける農業の推移を見極め、時代に即応した人材を日本に求め、ブラジル農業に新しい息吹きを与えることを目標とし、かつ戦後の混乱の中で、人生の指標を失いがちであった日本の農村青年に、海外への眼を向けさせようとするのが動機となった。

#### (2) 導入計画開始

当時の伯国政府移殖民院から、1,500名の導入枠を取得し、日本側においては、全国農業協同組合中央会の故荷見安会長を代理人に定め、各県の農協組合長の推せんする組合員の子弟で、満18才以上25才未満の農業青年の導入を開始した。

1955年8月4日出帆のアメリカ丸で第1回コチア青年移住者が送出国、1958年7月までに、1,500名の枠全員の受入を完了、更に1,500名の導入許可を受け、1967年1月10日サンスト港着の11名を最終として、総計2,508名が移住した。

#### (3) 募集、選考要領

##### ア. 資格、条件

- (1) 義務教育を終えた、満18才以上25才未満の未婚の男子で、農業に従事している2、3男のうち、特に扶養の義務を負わない青年であること。
- (2) 伝染病等ブラジル国の忌避する疾患を有せず、身体強健であること。
- (3) 思想堅実で、犯罪等反社会的行為をしたことのないもの。
- (4) ブラジル永住の目的で渡航すること。

##### イ. 義務

渡伯後、コチア産組の指定する農場で、組合員である雇主の命ずる労働に、最低4年間就労すること。

##### ウ. 就労条件

- (1) 住居は雇主より無料で与えられ、給与は配置される地方の、一般農業雇用賃金に準じて支払われる。
- (2) 作業中に負傷し、また作業のため健康を害したときは、雇主の負担で治療し、かつ休業中の賃金が支払われる。

##### エ. 募集、推せん、講習

- (7) 募集は、一般移住者と同様、海外協会連合会（現事業団）が行なう。
- (8) 選考は、各県海外協会が、県農協中央会と協議のうえ考査し、海外協会連合会に推せんする。
- (9) 最終的に合格が決定した者に対しては、海外協会連合会が行なう、教養及び講習を受ける。

2. コチア産菜組合中央会の概要

(1) 生立ち

1927年12月27日

コチア在住馬鈴薯栽培者協同組合として83名の組合員で発足

1933年 コチア産菜組合に改組

1966年 コチア産菜組合中央会に改組

(2) 組合員数(1975年)

伯 国 人	4,271名	44.4%
日 本 人	4,962名	51.6%
イタリヤ人	60名	0.6%
ポルトガル人	53名	0.5%
ドイツ人	68名	0.7%
スペイン人	36名	0.4%
中 国 人	11名	0.1%
その他(30ヶ国)	153名	1.7%
計	9,614名	100%

(3) 出 資 金

払込済額

Cr \$ 84,206,990.00

(4) 売上総額(1975年)

Cr \$ 1,348,313,529.00

≒ US \$ 168,539千

≒ 50.561700千円 (50.5億円)

(5) 組合倉庫数

74

(6) 従 業 員

4,511名



(7) 1975年度主要生産物販売量 (ICr\$=37.50円)

品 目	数 量	売 上 高 (千Cr\$)
馬 鈴 薯	2,591,684俵	8,252,325千円(220,062)
ト マ ト	1,390,236俵	2,148,600千円(57,296)
鳩 卵	4,603,021打	6,641,288千円(177,101)
コーヒ- (豆)	305,827俵	4,599,338千円(122,649)
食 鳩	1,316,727羽	5,244,075千円(139,842)
パ ナ ナ	1,017,957房	1,079,925千円(28,798)
ラ ミ ー	3,123,482Kg	450,563千円(12,015)
棉 花	—	2,302,725千円(61,406)
茶	756,855Kg	321,750千円(8,580)
野 菜	—	4,712,400千円(125,664)
果 実	—	4,455,525千円(118,814)
落 花 生	87,384俵	1,685,250千円(4,494)
大 豆 種 子	98,207俵	411,938千円(10,985)
輸 出 大 豆	802,001俵	3,034,050千円(80,908)
大 豆 (生豆)	831,882俵	2,713,275千円(72,354)
も み	58,988俵	249,750千円(6,660)
小 麦	301,115俵	1,060,163千円(28,271)
そ の 他		2,715,563千円(72,415)

## VI 附 表

1. 関 連 指 標
2. 調 査 時 の 物 価
3. コチア青年移住者受入件数
4. 出身県別コチア青年移住件数
5. コチア青年移住者の実態調査票

附表-1

関連指標

区 分	最低賃金 サンパウロ州	生活費上昇率 サンパウロ市	1ドル相当クル ゼイロ額(年末)	1クルゼイロ相当 円 額(年末)
1955年	Cr\$ 2,50	19.1%	Cr\$ 0,065	5,538 <sup>円</sup>
1956	3,70	21.7	0,064	5,625
1957	3,70	13.4	0,089	4,045
1958	5,90	17.3	0,138	2,609
1959	5,90	52.0	0,180	2,000
1960	5,90	23.8	0,190	1,895
1961	9,44	43.2	0,300	1,200
1962	13,21	61.8	0,460	783
1963	21,00	80.5	0,600	600
1964	42,00	85.6	1,825	197
1965	66,00	41.2	2,200	164
1966	84,00	46.3	2,200	164
1967	105,00	25.3	2,700	133
1968	129,00	25.2	3,805	95
1969	156,00	22.6	4,325	83
1970	187,20	17.5	4,920	73
1971	225,60	20.6	5,600	64
1972	268,80	14.5	6,180	50
1973	312,00	14.5	6,180	44
1974	376,80	33.0	7,385	42
1975	532,80	32.8	9,020	34
1976	768,00	44.8	12,275	25

調査時の物価

品名		単価	価格	円換算			
牛	肉	1 kg	Cr\$ 21,00	525円			
豚	肉	"	22,90	748			
鶏	肉	"	24,00	600			
い	わ	し	"	11,00	275		
え		び	"	140,00	3,500		
た		い	"	32,00	800		
	米	5 kg	23,00	575			
パ		ン	400¢	4,30	108		
ジ	ヤ	ガ	イ	モ	2 kg	10,00	250
玉		ね	ぎ	1 kg	4,20	105	
ト		マ	ト	"	6,00	150	
キ	ユ	ウ	リ	"	4,40	110	
レ		タ	ス	1 個	1,50	38	
ミ		カ	ン	1 打	6,00	150	
洋			梨	1 ケ	4,80	120	
り	ん	ご	"	3,00	75		
鶏		卵		1 打	7,50	188	
牛		乳		1 L	5,00	125	
パ	タ	ー		200¢	6,25	156	
チ	ー	ズ		500¢	21,75	544	
砂		糖		1 kg	3,80	95	
食		塩		"	2,00	50	
食	用	油		900ml	10,20	255	
し	ェ	ウ	油	850ml	8,50	213	
小	麦	粉		1 kg	2,00	50	
タ	バ	コ		1 ケ	6,00	150	

1976年11月現在 (Cr\$ 1.00 ≒ 25円)

附表-3

コチア青年移住者受入件数

年 度	家 族 (家族 人数)	単 身	計
1955	2 ( 7 )	214	216
56	0	421	421
57	0	479	479
58	0	307	307
59	9 (18)	232	241
1960	10 (24)	214	224
61	6 (12)	139	145
62	5 (12)	48	53
63	1 ( 2 )	32	33
64	6 (18)	78	84
65	4 ( 8 )	75	79
66	5 (14)	43	48
67	0	11	11
計	48 (115)	2293	2341

※ 産業開発青年隊は除く。

着伯年度により集計、年度は歴年。

附表-4

出身県別コチア青年移住件数（家族の家長+単身）

県名	件数	県名	件数	県名	件数
北海道	95	岐阜	30	佐賀	69
青森	42	静岡	43	宮崎	98
秋田	52	愛知	30	熊本	164
山形	71	三重	47	大分	43
岩手	41	滋賀	18	福岡	84
福島	57	奈良	3	鹿児島	205
宮城	71	和歌山	22	合計	2341
茨城	47	京都	8		
群馬	54	大阪	17		
栃木	43	兵庫	36		
埼玉	38	鳥取	26		
千葉	31	島根	36		
東京	19	岡山	44		
神奈川	16	広島	50		
山梨	35	山口	66		
新潟	59	徳島	33		
長野	87	香川	40		
富山	40	愛媛	81		
石川	10	高知	62		
福井	35	長崎	43		

※ 同伴者及び産業開発  
青年隊を除く。

コチア青年移住者各位殿

1976年9月 付表-5

国際協力事業団サンパウロ支部 支部長 永田 良三

コチア青年移住者の実態調査について (協力 ご依頼)

よすます。ご返答のこととお喜び申し上げます。  
 本報、当事業団では農業移住促進のための農業移住者の独立援助の具体的方策として、オ・中央移住地の設立分団、独立現地法人組織の確立等鋭意実施中ですが、これら事業の進捗資料とするため、コチア青年連絡協議会、コチア産業組合中央会の全面的協力をお願いし、コチア青年移住者の実態調査を実施することになりました。  
 本コチア青年の移入、農業移住者の独立援助計画確立のため、貴団コチア青年の人数を調査させていただき貴重な資料として、とりまとめたく思っております。  
 つきましては、お手数をおかけしますが、ご協力をお願い申し上げます。

コチア青年移住者実態調査票

(部外秘)

調査機関：国際協力事業団サンパウロ支部  
 コチア青年連絡協議会  
 コチア産業組合中央会

氏名 ソニック	第 次 回	移住年月 19 年 月	出身 ( 県 )	独身/既婚						
現住所	( 市 ) ( 町 ) ( 番 ) ( 号 )									
手紙連絡先	加入組合 C A C 他 ( )									
職 業	農業 ( 独自、借地、歩合、雇傭 ) 商業 ( 自営、雇傭 ) ( ) その他 ( )									
家族構成 氏名	続 柄	生年月日	国籍	職業 ( 稼働まで ) 学生 ( 学卒まで )	備考 ( 結婚時期 etc )					
1 貴伯時	( 本 人 )									
2 *										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
現在の主な資産 総合計Cr\$										
資産名	農耕地	宅地	建物	水年作物	機械設備	車輜	現預金	有価証券	その他	
評価額										
年間収入 (Cr\$)	年間支出 (Cr\$)		年間収益 Cr\$		1ヶ月の生活費 Cr\$					
移動の経緯										
入植年月	入植先 ( 地区、パトロン名 )	従事職種	就労条件	移動の理由		その他				
1						* 農業以外に変わった時は特に具体的に				
2										
3										
4										
5										

\* アンケート調査 該当に○印

移住してよかったと思えますか。 思う 思わない 不明 理由 ( )

ブラジルに永住しますか 地化 ( ) 年) 永住、転住、帰国、わからない

結婚 (既婚) 配偶者は 日本人 (日本で、婿若花嫁、当地で結婚) 日本人 (二世、三世) 日本人外 (未婚) \* 日本から呼びたい、当地で選ぶ。 (相手は日本人、日弁外、どちらでもよい)

子供の学校教育は ブラジル式、ブラジル式のほか日本語教育、完全な日本式

家庭内での使用言語 ブラジル語、なるべくブラジル語、日本語、なるべく日本語、両方

移住後訪日はされましたか。 した (貴伯時) 年後、目的-観光、他 ( )、予定している 予定していない

社会的団体の活動に参加していますか。 している (名称) 予定していない、以前した、まだない。

備 考

1) 社会的要人との特につきあいがあれば、ご記入下さい。

2)

3)

4)

\* 農業者は裏面までご記入下さい。

独立農業移住者調査欄									
現況									
花卉、野菜、バナナ、雑作、果樹、養鶏、(種、肉) 養豚、牧畜、その他( )									
耕地面積		a/q		既耕地		a/q			
主要作物名	栽培面積	収量(年間)	金額(年間)	備考					
主な農場施設、車輦、農機具									
雇用現況	日雇家族	名	単身	名	伯人家族	名	単身	名	計
独立時期	19	年	月	(着伯後)	年	地域( )			
耕種	面積		所要資金Cr\$						
資金調達法	自己資金、市中銀行、パトロン、JEMIS 規元送金、その他( )								
独立時を含め現在までJEMIS(国際協力事業団)の融資を受けたことがありますか									
ある(土地購入資金、機械具購入資金、東南アジア永年作物植付資金、東南アジア建設資金、短期営農資金)									
ない(主な理由)									
現在までの農機具年引受状況									
過去引受総数	名	単身	名	計	名	現在引受数	名	単身	名
現在青年の引受希望	ある( )		名) ない						

未独立農業移住者調査欄									
現況									
花卉、野菜、バナナ、雑作、果樹、養鶏、(種、肉) 養豚、牧畜、その他( )									
借地(面積)		) 分譲、移住、		主要作物名( )					
独立について									
時期	1年以内、	2年、	3年、	4年、	5年	5年以上( )	) まだ考えていない		
形態	花卉( )	野菜( )	) バナナ、雑作( )		果樹( )	) 養鶏(種、肉)			
	) 養豚、牧畜、その他								
地域規模	地域名( )		規模( )						
必要資金額	土地( )	a/q	Cr\$	) 機械設備(Cr\$		) 営農資金(Cr\$		) 他( )	
資金調達方法	自己資金、市中銀行、パトロン、JEMIS、規元送金、その他( )								
現在の主な資産	総合計総価Cr\$								
現預金( )	) 車輦、		) 建物、宅地( )		) 永年作物( )				
) 主な農機具( )									
) その他									
備考									



